

## 第2回稲沢市観光基本計画策定委員会 会議録

【日 時】平成29年4月26日（水）午前10時～午前11時50分

【場 所】稲沢市役所本庁舎3階 議員総会室

【出席者】稲沢市観光基本計画策定委員会委員（敬称略）

大澤 健	和歌山大学経済学部教授
河村 保	一般社団法人愛知県観光協会専務理事
古川正美	稲沢市観光協会事務局長
服部正見	稲沢商工会議所理事兼事務局長
山田 洋	祖父江町商工会事務局長
野村 修	平和町商工会事務局長
松田雅之	尾張大國霊神社権禰宜
林 和伸	善光寺東海別院副住職
塩冶康人	国土交通省中部地方整備局木曾川上流河川事務所河川公園課長
伊藤哲浩	愛知県振興部観光局観光振興課長
岩間福幸	稲沢市経済環境部長
遠藤秀樹	稲沢市教育委員会教育部長
大野邦子	稲沢市観光協会ボランティア会・稲沢市ふるさとガイドの会
橋本昌博	株式会社国分農園 代表取締役
高村宗克	特定非営利活動法人ネイヴル 理事長
水谷光宏	株式会社水谷建設 代表取締役（平和町商工会副会長）

【事務局】 渡會竜二 経済環境部調整監  
澤田雄一 商工観光課長  
久留宮庸和 商工観光課主幹  
大屋 将 商工観光課主任

### 【議事次第】

- 1 委員長あいさつ
- 2 新委員の委嘱
- 3 自己紹介
- 4 協議事項
  - (1) 稲沢市の観光における現状と課題について
  - (2) 各種調査の実施について
  - (3) その他
- 5 その他

## 【会議の概要】

[事務局]

定刻より5分ほど前ですが、皆様お揃いですので、ただ今から稲沢市観光基本計画策定委員会を始めさせていただきます。本日はお忙しい中、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。

私はこの会議の進行を務めます稲沢市経済環境部商工観光課長の澤田雄一です。よろしくお願いいたします。はじめに、会議の開催にあたり大澤委員長よりご挨拶いただきます。

### 1 委員長あいさつ

[委員長]

おはようございます。本日の第2回目の委員会では、新たなメンバーにもご参加いただき開催できることを心から嬉しく思います。稲沢市では今後、地域のありのままの魅力を使った「観光まちづくり」に取り組んでいきたいと考えています。そのため、日頃現場で活躍されているプレーヤーの方々の参加が非常に重要であり、そういった方々のご意見を反映させて計画づくりを進めていくことが何よりも肝要と考えます。今回現場により近い方々に新委員として入っていただいたことで、よりリアルな計画づくりに近づくことができるのではないかと期待しています。よろしくお願いいたします。

### 2 新委員の委嘱

[事務局]

次に本日新たに委員に就任されます4名の方に委嘱状を交付いたします。委嘱状は本来ならばお1人ずつ交付させていただくところですが、本日は会議時間の関係上、大変恐縮ですが席上での交付とさせていただきます。お手元に委嘱状を置かせていただきましたので、よろしくお願いいたします。

### 3 自己紹介

[事務局]

ただ今委嘱をさせていただきました4名の方を含め、本日この策定委員会に初めて出席される委員が6名いらっしゃいますので、お一人ずつ順番に自己紹介をお願いしたいと存じます。お手元の「稲沢市観光基本計画策定委員会委員名簿」に従い、伊藤委員、遠藤委員、大野委員、橋本委員、高村委員、水谷委員の順でよろしくお願いいたします。

<委員6名の自己紹介>

[事務局]

ありがとうございました。次に2点ご報告いたします。初めに本日の会議ですが、栗林芳彦委員、安藤之一委員の両名からご欠席の連絡をいただいておりますことを報告いたします。2点目として、本日の会議には観光基本計画の策定にあたり業務支援をいただいております株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所様にも事務局の補助として同席いただいておりますので、

よろしく申し上げます。

それでは、これより議事に移りたいと思います。本日の協議事項につきましては、お手元のレジュメのとおりです。会議の進行は、本委員会の設置要綱の規定により委員長が務めることになっておりますので、以後の会議の取り回しは大澤委員長にお願いいたします。

#### 4 協議事項

##### (1) 稲沢市の観光における現状と課題について

[委員長]

これより議事に入りたいと思います。

最初に協議事項(1)稲沢市の観光における現状と課題について、事務局より説明をお願いします。

= [事務局] =

##### 【資料1「稲沢市の観光における現状と課題について」説明】

[委員長]

事務局からの説明が終了しました。ご意見、ご質問等がある方は挙手をされまして、指名後にご発言いただきますようお願いいたします。

この分析に意見を言うのはなかなか難しい話だと思いますが、現状に対する率直な感想でも構いませんし、資料1の8ページに「今後実施する調査の視点」として事務局から案が上がっていますので、今後調査してほしい事項や「こうしたことを知りたい」という意見でも構いませんので、ご発言ください。

[委員]

今回新しい計画を策定することになりますが、現行計画の進捗状況やそれを反映している部分はあるのでしょうか。現行計画との繋がりなどはどのように考えていますか。

[事務局]

現行計画については、稲沢市観光基本計画推進連絡調整会議という庁内体制の下、毎年度進捗状況を管理しています。現行計画は今から10年前、稲沢市が合併してまもなく策定しました。稲沢市観光協会の設立と合わせて、広く旧祖父江、旧平和、旧稲沢における観光資源の整理、観光施策の総合的な調整を図った上で、稲沢市の観光は観光協会中心で行くことを示したものです。今回策定する第2次観光基本計画では、これまでの10年を受けて、進捗具合や様々な反省点を検証し、担い手やプレーヤーの発掘、また、できるだけ具体的な取組事例を増やしていくような、実行性のある計画にしていきたいと考えています。

[委員]

ありがとうございます。10年前と最も異なるのは「観光を取り巻く環境が違う」という点にあ

と思います。国の話で言えば、訪日外国人旅行者を年間 4,000 万人にするという目標は一昔前では考えられなかったことです。そうした点も踏まえて、新しい計画づくりに取り組んでいただければと思います。

[委員長]

稲沢市が進む方向性について合意を得ることが、こうした資料の一番大事な意味だと理解しています。調査自体が「正しいか、間違っているか」という議論もあり得ますが、むしろ稲沢市の今後の方向性として「この資料から私はこう考える」といった意見があってもいいと思いますので、ぜひご発言ください。

[委員]

10 ページの「(3) 稲沢市への来訪状況」では、「稲沢市への観光客は年々増えている」と記載されていますが、「各観光地・イベントの来訪者の推移 (H24-27 比較)」の表を見ると、「いなざわ植木まつり」や「善光寺東海別院」は大きく増加傾向にあるものの、「稲沢夏まつり」や「国府宮はだか祭」などは減少傾向にあります。どのように分析されていますか。

[委員長]

善光寺東海別院ではどうしてこんなに増加したのでしょうか。

[委員]

平成 24 年の年間 27 万人と平成 27 年の年間 54 万人の差は、「御開帳」がその理由です。数え 7 年に 1 度が「御開帳」の年であり、4、5 月の 2 か月間で約 15 万人の参拝客が訪れた分が反映されていると思われます。

[委員長]

その他の増減については、事務局で分析されていますか。

[事務局]

今回お示したデータは愛知県に毎年提出している「観光レクリエーション利用者統計」の数字を掲載しています。善光寺東海別院のような特殊要因もありますが、はだか祭などの例年同じように行われているイベントについては、天候の影響を大きく受けていると考えられます。詳細資料を調べてみないと実際の天気がどうだったかは分かりませんが、そのようなことが一つの要因になっていると思われます。

[委員長]

24 年と 27 年ですと、「御開帳」で倍増したなどの特殊事情に左右されることもありますので、可能であれば、もう少し長いスパンでデータを示していただいたほうがいいでしょう。

[事務局]

次回会議にて過去数年間の推移が分かる資料を提示いたします。

[委員長]

全体としてデータを長く取ると、傾向が分かります。特に市町村の皆さんは天候の影響とよくおっしゃいますが、天候の影響ではない特徴を読もうと思うと、もう少し長いスパンで見た方がいいでしょう。特に「いなざわ植木まつり」と「そぶえイチョウ黄葉まつり」は数字の伸びが大きいので、何か別の特徴が読み取れるのではないかと期待しています。

[委員]

「いなざわ植木まつり」が135%という伸び率です。植木まつりは基本的に毎年4月20日から10日間の開催という設定ですが、曜日の関係で13日間や15日間になることもあり、増加の理由にはその影響もあると思います。同じように「そぶえイチョウ黄葉まつり」も曜日の関係で開催期間が一定していない可能性があります。

[委員]

「そぶえイチョウ黄葉まつり」は24年から毎年来場者が増えてきましたが、これはマスメディア等で取り上げられたことが大きな要因だったと思います。このまつりも天候と季節の流れに非常に影響を受けるので、その対策が今後の課題だと思っています。

[委員長]

資料の数値などから見ても、やはり「まつり」、「歴史」、「イチョウ」、「植木」が稲沢市の中心になると感じますが、いかがでしょうか。

もう一つ大きなテーマとしては、訪日外国人旅行者数が勢いよく増えていることで、その中でも国も愛知県もインバウンドに取り組むことが明確な方針になっています。愛知県の現状としては、増加している外国人観光客のほとんどが中国人であり、他地域と比べても圧倒的に多いのが特徴です。それは愛知県が「東京－大阪」間のゴールデンルート上の中継点であり、宿泊地となっていることにあります。要するに愛知県は目的地ではなく通過点であり、東海道の沿線以外では宿泊客はほとんど伸びていないのが現状です。何とかそのルート以外の所にも観光客を誘導しているというのが、中部地方における昇龍道プロジェクトに関しても、愛知県の方針としても言われているところです。その意味で稲沢市が持っているコンテンツは、インバウンド用として非常に魅力的なコンテンツの可能性が高く、今回の分析資料を見ても稲沢市のポテンシャルがすごく大きいことが分かるのではないのでしょうか。そうした点について皆様いかがですか。例えば、植木についてはどうでしょうか。

[委員]

現在、植木や造園の仕事はほとんど国内向けに行っています。職業柄、建設関係にも付随しているため、愛知県内、主に名古屋市の消費地に向けた営業等が多いです。その一方で、中国の富

裕層が大きな松の木などを自国で植えるために購入したり、中国人バイヤーが自国の富裕層に向けて売り歩くために購入したりといった具合に、買い付けに来ることもここ10年くらいあります。全体として品物がかなり減って下火になりつつあるものの、続いている状況です。そうした事例はありますが、「観光」という面で稲沢の植木を外国人が見に来るということは考えづらい気がします。稲沢の植木は体験するものではなく、例えば名古屋市の東山動植物園のように1日又は半日かけて回り、動植物に関する知識を深めるような大きな施設もありませんし、それを実現するような具体的なアイデアや将来展望も見えない気がします。どこに買いに行けばいいのか分からないといった意見もありますが、現状は市内にも販売所が多くあります。その販売所に買いに行き自分の庭に植えたり、業者に頼んで庭造りをしてもらう程度で止まっているのが現状です。大きな意味で、国や県レベルでの観光という面で見た場合に、植木などは外れているように思います。

[委員長]

稲沢市の植木、盆栽には人を惹きつける力があり、富裕層や質の高い人たちが目的地として来てくれる可能性があるため、国や県としては、出来れば観光資源として使いたいという要望が実際にあると思います。業者さん同士でそういった話は出てきませんか。

[委員]

「観光」という観点では限りなくゼロに近いです。先ほど申し上げたとおり、中国人向けに品物を納めることは行っていますが、あくまで自分の会社の利益のために行っているのが事実です。古い産業を行っている地域を観光地化するとすると、どこでも複数の業者や事業所、又はまち全体で一つのテーマに対して取り組んでいる印象が個人的にあります。稲沢市の現状は「自分のところが儲かればいい」という感覚が強く、「一致団結して稲沢の産業を盛り上げよう」という傾向は薄い気がします。私はあまり参加していませんが、市内には植木に関する生産組合や団体もあります。同業者の団体なのでトラブルの噂を耳にすることもあります。

[委員長]

他の委員はいかがお考えですか。

[委員]

私は「ふるさとガイド」として、神社仏閣のガイドボランティア活動を行ってきました。しかし、稲沢市にこれだけ素晴らしい文化財があるということ自体が市民に浸透していないと感じています。小さい時からずっと住んでいるにもかかわらず、「地元こんな文化財があることを知らなかった」という話をよく聞きます。要するに文化財が教育の中に入っていないように感じます。私も稲沢市に住み始めた当初は全然知らなかったのですが、平成15年から3年間にわたり、市生涯学習課が行ったガイドボランティアを育成する講座を受講して驚きました。稲沢市には24もの素晴らしい国の指定文化財があり、その多さは名古屋市、岡崎市、蒲郡市に次いで愛知県で4番目と聞いています。稲沢市は昔国司が置かれた関係でとても古くから栄えたまちであり、平安、

室町、鎌倉時代の文化財が多くあります。にもかかわらず、現在に全然伝わってきていないと感じています。名古屋市と岡崎市も多くの重要文化財を有していますが、ほとんどが徳川の時代のもので、稲沢市のように平安、室町、鎌倉時代の文化財がそのまま残っていることはすごいことです。重要文化財がある奥田町の安楽寺に収蔵庫を建設する際、奈良や京都の学芸員が調査に来られたそうです。その時に収蔵されている仏像を見て、「稲沢市にこんな素晴らしい文化財があるのか」と驚かれたそうです。「稲沢市民はわざわざ奈良や京都へ行かなくても、この仏像を拝んでいただければ十分です」と学芸員に言わしめた程のものが稲沢市にはたくさんあるのです。しかし、寺側も長い間公開していなかったこともあり、そうしたことが全然市民に伝わっていないのです。

作ったものは、いつかは滅びます。誰にも見られずに収納庫のドアを閉めたままやがて朽ちていくよりも、傷まないように気を遣いつつ公開して皆さんに見ていただき、知っていただく、それを支えていくのが私たちボランティアだと思っていますが、万が一朽ちてしまったら写真やレプリカで残す方法のほうが望ましいと私は思っています。「皆さんに知ってもらい、拝んでもらうために、文化財を活用していくことが重要だ」とボランティア活動をする中で訴えています。「観光」に対する市民意識の醸成は難しく、ボランティア活動に携わっている人の中でも様々な意見があり、「観光」に対するアレルギーが未だあるように感じます。「研修」、「研究」、「勉強」には積極的ですが、「観光」には抵抗があるという人の観点の境目を変えていく必要があると思います。

[委員]

稲沢市の観光資源として木曾川を活用することが良いのではないかと思います。皆さんご存知ないかもしれませんが、稲沢市近辺の木曾川は馬飼頭首工（木曾川大堰）があることによって、水面が非常に安定しています。川ですが流れが急ではなく、一定の水位が維持されています。さらに飲料水としても使われていることから、水質も極めて良い状況です。このことが具体的にどのような形で表れているかと言うと、稲沢市で調査されていますが、野鳥の種類と量が愛知県の中で1番とのこと。木曾川の河畔林が該当する場所だと言われており、愛知県弥富野鳥園よりも上だそうです。そういうことも含めて、木曾川は観光資源になり得るのではないかと考えます。河川の歴史を調べると、日本の文化の中で昔は川で泳ぐ「川水浴」が定着していましたが、それが衰退したのが高度成長期の河川汚染です。今は全国的にも水質が改善され、その中でも木曾川水面はトップの水質です。そういう観点も入れていただけると良いと思います。

[委員長]

ここでは川水浴はできますか。

[委員]

現状はできませんが、ウィンドサーフィンや水上バイクなどの水上スポーツはできます。一宮市と調整することも必要ですが、木曾川は日本の3大川の一つにあたるため、資源としては魅力があると考えます。

[委員長]

「観光資源の発掘」という点で、木曾川は掘り起こしてみたい資源ではあります。

[委員]

観光について、以前は旅行者やお土産品が中心でしたが、今は裾野がとても広がりました。今回の会議でも国府宮さんや善光寺さんがおみえです。国や県の状況を見ても、多様な産業が観光に入ってきています。一方で文化財については、「守る」視点はあっても、「観光」の視点がありません。また、植木の生産組合も商売が大前提ではありますが、多くの良い資源があるので、「見ていただく」という視点が重要であると考えます。そうした点で、先ほど他の委員が問題提起をされた「機運の醸成」はすごく大事なことだと思います。また、先ほどの川の関係、自然など、稲沢市に素材が多くあることは皆さん承知していますが、これらを今後どう展開し、醸成をして、アクションに繋げていくかという点で、今回の2回目の会議は、現状から更なる伸びしろがあると感じました。今回新しく委員が増えたことはとても良いことだと思っています。「機運の醸成」には時間がかかるとは思いますが、それを皆さんの合意を得て、今回の計画づくりの中に盛り込めると良いのではないかと思います。

[委員]

2点申し上げます。まず1点目ですが、最近「タブー」、「炎上」等がキーワードとして話題に上がります。稲沢市の観光という観点で一つ例を挙げると、今回の調査で上がっていないキーワードに「信長」があります。信長の生誕地については諸説あり、議論がとても難しくデリケートな話ですが、ウィキペディア検索等でいろいろと調べてみると、生誕地説のある勝幡城の本丸があった場所はおそらく稲沢市内であると言われていています。愛西市が頑張っているPRしているので、この会議の中だけで議論を進めることは難しいかもしれませんが、「今の日本統一が始まったのは、ここ稲沢市からである」といった極端な言い方もできると思います。タブーという表現は少し大袈裟かもしれませんが、このような点について、当委員会の中でどこまで進めていいのでしょうか。

次に2点目ですが、個人的に今回の調査報告に不足しているものがあると感じています。それは、ホームページへのアクセスについてのデータが上がっていないことです。稲沢市のトップページへの月間アクセス数は確か7万件くらいであると聞いています。この会議への参加に先立ち、個人的にいろいろとキーワードを調べてみたのですが、観光協会ではある程度決めているようですが、市では「観光」という定義があまりはっきりしていない印象を持ちました。何かを検索するという動機は、目的の有無に関わらず、日常生活を離れて、余暇を使って何らかの新しい経験、体験を味わいたいということに尽きるとは思います。その際に大変活用されているのがWeb、インターネットであり、ネット上でどこまで情報が出ているのかということも含め、私の世代などでも行動を決める際の非常に一般的なツールとなっています。観光関連の検索キーワードで稲沢市のホームページへアクセスする訪問者に対して、こちらツールで対抗、対応すべきだと考えます。



[事務局]

始めに信長の件ですが、市として慎重に取り扱っている部分があり、庁内での調整が未だ無い段階です。今後この場で協議できるものになれば、追って情報を出していきたいと考えます。

2点目のホームページへのアクセス情報については、詳細が分かりかねますので、持ち帰って担当部署に確認いたします。

[委員]

フェイスブックページでもある程度のデータが出ます。そうしたウェブ関係のデータを見ると、特定事象によるアクセス数の伸びや嗜好、傾向等がはっきりと表れるので、観光も経済の中に内包されたものと考え、面白く活用できると思います。

[委員]

信長生誕の件は決してタブーではないと思います。最近の学説的には、有名な小和田哲男先生なども勝幡城説を唱えています。信長の父・信秀が勝幡城に山科言継などを招いて、蹴鞠や宴を催した際に、那古野城にいた今川義元の弟・氏豊がわざわざ勝幡城まで通ったという記録もあるようです。ただし、先ほど言われたように、愛西市ではNPO法人信長生誕を育む会が精力的に活動していますので、広域的な調整は必要になると考えます。

もう2点ほど申し上げます。先ほど「盆栽はキラコンテンツである」との話がありましたが、実は明日4月27日から4日間、さいたま市の旧大宮地区で「第8回世界盆栽大会」が開催されます。合併前の大宮市だった頃から市内に「盆栽町」という盆栽屋が集まった地区があり、第1回は28年前の平成元年に行われ、今年28年ぶりに大宮のソニックシティやさいたまスーパーアリーナで開催されます。その大宮と同等とは言いませんが、稲沢にもそれに近い盆栽の資源はあると思います。

2点目として、先ほど野鳥の話がありましたが、野鳥の調査、自然環境調査を行っているのは私ども市経済環境部であり、関連するデータも持ち合わせています。先の3月定例市議会で議員から「どんどん活用するように」とのご意見もいただいていますので、計画づくりの中で取り入れるべき部分は取り入れて行けたらと思います。

[委員]

今、信長の話が出ましたが、これと同じケースに該当するかどうかは分かりませんが、桶狭間の主戦場の場所について、これまで名古屋市と豊明市がお互いに主張し合っていました。それが一昨年頃から手を結んで一緒にPRをしていこうということになりました。ですので、稲沢市と愛西市がお互いの立ち位置で話をした上で、合意できれば協働していく。観光の視点が良いのか、文化の視点が良いのかは微妙ですが、観光という視点であれば、触れてはいけない部分もあるかもしれませんが、お互いに意見を述べ合えば上手くいくのではないのでしょうか。

次にホームページのアクセスについてですが、おそらくアクションプランの中の方法論として様々な形で出てくると考えます。この場合、今後の展開方法論を語る上で、また情報発信のツールとして、資料1の13ページ下段にある「抽出キーワード」がとても大事になると考えます。何

をどう取り上げるかによって、検索したトップに上がるか上がらないか、方法論としていろいろな議論が出てくると思います。先ほどの委員のご意見は非常に大事なことで、今後上手く活用して行ければと思います。

[委員長]

この議題についてはこれくらいでよろしいでしょうか。皆さんから貴重なご意見をいただきました。特に地域の資源を直接預かっている方々からの発言が今回多かったのも、稲沢市には多様な魅力があるということがよく分かりました。先ほど「この会議でどこまで決めていいのかわ」という意見もありましたが、私は基本的に、観光資源とは市民が「これ」だと思うものが観光資源であるという認識で、皆が正解だと思うものが正解であるとのスタンスで考えています。というのは、ある町で仕事をした時に、町長の肝入りで「寺社仏閣」を全面に打ち出したところ、市民が「寺社仏閣」について全く共感していない、何とも思っていないということがありました。ワークショップを行っても、それについて「何かやってみたい」という意見が全く出なかったということもあり、「これでは上手いかわない」と感じたことがありました。いろいろな資源に関しても、市民の皆さんが「どれくらい大事にしているか」、「どれくらい盛り上げていこうと思っているか」が大事で、その意味では「市民の意識をどうやって培っていくか」、「市民の参加をどうやって誘導していくか」がとても大事になると思います。そういう意味では、今後の調査においても「これでやっていきたい」、「こういうことをもっと行いたい」という市民がどれくらいいるのかを調べていただくと、さらに良いのではないかと思います。

今回、新任の委員の皆さんからも意見を多数いただきましたが、実は前回の会議終了後に「観光まちづくりとは何か」をテーマに講演会を開催しました。この講演会では「観光まちづくり」とは「観光をまちづくりのための手段としてどう使うか」ということ、要するに「文化財を保全するために観光をどう使うか」、「植木屋さんにもっと儲けてもらうために観光をどう使うか」であり、「観光のために文化財を使ってくれ」とか、「植木屋さんに観光をしてほしい」などという話では無いということをお話ししました。そういう方向で今後考えて行けたらと思います。

## (2) 各種調査の実施について

[委員長]

それでは次の協議事項に移ります。協議事項(2)各種調査の実施について、事務局から説明をお願いします。

= [事務局] =

【資料2「各種調査の実施について」、「稲沢市の観光に関する市民意識調査【未定稿】」、「稲沢市の観光に関するインターネット調査 調査項目【未定稿】」及び「稲沢市観光基本計画策定にあたってのヒアリング調査【未定稿】」について説明】

[委員長]

事務局からの説明が終わりました。それではご意見、ご質問がある方はご発言願います。

事務局の説明の中でもありましたが、要はこの調査自体では「何か情報を得る」という大きな目的以外に「人を釣り込みたい」と考えていて、「どういう活動を行えばみんなを釣り込めるのか」、又は「釣り込めそうな人はどれくらいいるのか」を調べるという「プレイヤーの発掘」がもう一つの大きな趣旨となっています。愛知県の計画もそうですが、県民や市民が広く参加しなければ「観光まちづくり」になりませんので、どういうやり方で仕掛けていくか、そこを考えるための調査です。そういった点で皆さんからご質問や「こういうやり方が良いのではないか」といったご意見があれば、ぜひお願いします。いかがでしょうか。

[委員]

委員長がおっしゃった、市民をプレイヤーと見立てて、まず市民を観光に参画させていくという事は、具体的にどのようなイメージになるのでしょうか。

[委員長]

ここが一番難しいところです。観光はビジネスであり、市民の多様な意向の中で行われるものなので、「そもそも行政が観光基本計画を作成して実行できるのか」という問題があります。要するに、市長の言うことに従うのは市の職員までです。仮に市が「盆栽を観光に使いたい」と言っても、実際の盆栽業者が「嫌だ」と言えばそれまでで、市長の一存ではできません。そう考えた場合に、市民の皆さんの意欲を高め、やる気になった人たちを見つけ、その人たちに実行していただく形にしていかないと、観光基本計画は成り立ちません。市民に主体的に活動していただくための「仕掛け」と「仕組み」、私の言い方で言いますと「釣って来るための仕掛け」と「その活動を継続的に行ってもらえるような仕組み」が必須です。基本的には、分かりやすいイメージで言うと「この指止まれ」です。「この指止まれ」と言った時に市民が来てくれるようなことを仕掛けていかないと、実行性のある計画にはなりません。そのためには「どういった仕掛けをしたら市民が一生懸命に取り組んでくれるか」又は「市民の皆さんが主体的に活動してくれるか」を調べることが、今事務局から提案のあった調査内容の大元です。そのため、この調査を基に何かを決めて誰かにやらせることはできません。例えば、調査結果から「はだか祭」を観光の目玉にしたとしても、「誰がどのように行うか」の段階で、まつりに参加している市民と実際にまつりの開催に関わっている方々がその気にならないと意味を成しません。そこが観光に関する計画の厄介なところで、その意味でこうした調査が前提として必要になります。アンケートの調査票の中で「観光まちづくり」の説明をととても完結にまとめていただいておりますが、調査票にこのような説明を付けることもそういった理由からです。「稲沢市では観光を使ってまちづくりを行っていく」ということと「観光でいかに稲沢市をもっと魅力的なまちにしていけるか」を考えるアンケートであることを同時に説明しています。

[委員]

観光の枠組みをどこまで拡大できるかについて考えています。先ほど、はだか祭の話がありましたが、私ははだか祭に25年程ずっとさらしを巻いて出ています。しかし、市内で少し熱が冷めつつあり、市外のファンが増えつつあると感じています。今までいくつか観光資源の話がありま

したが、稲沢市は年配層に比較的ロイヤリティが高い地域資源が多い傾向にあると考えます。その点も含め、内部のプレーヤーだけではなく、外部のプレーヤーにも枠を広げてはどうでしょうか。

[委員長]

私がここに座っている理由として、「あいち観光まちづくりゼミ」という愛知県の事業があり、今年で7年目になるのですが、私の中で「愛知県の観光イメージを変えたい」という大きなテーマを掲げて取り組んでいるものがあります。愛知はモノづくりが盛んで、農業や工業等もあるので、観光を行う必要が無いと考える地域が多いです。今さら観光を付け加える必要は無いというイメージが多く、愛知県の財界人と話をしても、トヨタ博物館と豊田スタジアムの話しか出てきません。しかし、愛知県で行う観光はそうではなくて、「愛知県の魅力を上げていくために観光を手段としてどう使うか」という発想、要するに「人が来れば、お金が落ちればいい」ではなく、「観光を通じて愛知県の魅力をもっと高めていく」という「観光まちづくり」の考え方を愛知県では長年説明しています。愛知県は別に観光でお金を落としてもらわなくてもいい県なので、「観光を通じて愛知県の魅力を高めていこう」ということです。稲沢市もまさにそのとおりで、事務局の大屋さんが昨年度1年間「あいち観光まちづくりゼミ」に参加していただき、その経験に基づいてこの計画の策定方針を作ってくださいました。とても良い作り方をされています。稲沢市は観光で経済を潤す必要はなく、観光と言われても「私は関係ありません」という方がほとんどだと思います。そうではなくて、「稲沢市を魅力的にしていくために観光を手段として使う」、「市民が住んで良かったと思うまちをつくるために観光を手段として使っていく」という趣旨で観光基本計画を作ることが大方針です。観光を通じて稲沢市の魅力を高めていこうとしています。そのため、基本的な目線は市民に置いています。その中で「自分は観光に関係ありません」と言う人ではなく、「観光まちづくり」の考え方に共感し、「稲沢市をもっと魅力的にするために観光に取り組みたい」と言う人をいかに探していくかをテーマとして取り組もうとしています。

[委員]

「観光を通じて市民が持つ稲沢市へのロイヤリティを高めていこう」というニュアンスで理解してよろしいでしょうか。経済ありき、お金ありきではなく、まず市民の意識を、市民のプライドを高めていこうという方向性でよろしいでしょうか。

[委員長]

そのとおりです。ただし、お金は大事です。この場合、「観光客を呼んでお金を落としてもらうために植木屋さんに協力してもらう」のではなく、「植木屋さんにもっと儲けてもらうために観光をどう使うか」という発想で行っていこうということです。経済的な意味も含めて、市民の方々が「やってよかった」と思える観光をどのように実践していくかが大きなテーマになります。

[委員]

資料2の4ページ「調査概要」で、ヒアリング調査の対象として「観光に関わる企業・事業者・

団体等（20者程度）」とあります。観光に関わる20団体等は事務局側である程度想定されていると思いますが、観光に関わらない団体について調査される意向はありますか。先ほど委員長がおっしゃられた「発掘」はどのように行うのでしょうか。

[事務局]

ヒアリングの切り出しとして観光協会を対象に行い、その後、観光に関わる方々、団体へと向かう予定です。合わせて事務局で考えているのは、例えば大学生で、市内には4年制大学と短期大学の2つの大学があります。そうした観光に直接関わりの無い方も含め、幅広くヒアリングの対象にしていきたいと思っています。

[委員]

よく「よそ者・馬鹿者・若者の3者が鍵になる」と言われます。稲沢市には立派な大学がありますので、そういう所にもぜひ行かれてはどうでしょうか。また、稲沢市には三菱電機や祖父江町の王子マテリアなど、立派な製造業の工場が多くありますので、そこが団体に当たるかどうかは別として、少し輪を広げて見ていただくと良いと思います。もう1点、観光に関わる団体内で、実際に観光に関わっている従業員の方々にも意見を聞いてみてはどうでしょうか。

[委員長]

大事なご指摘です。事務局では今のご意見を反映させていただく方向で考えていただけますか。

[事務局]

はい。ご意見を踏まえて取り組んでまいります。

[委員長]

その他に皆さんからご意見、ご質問はございますか。

他にご質問もないようですので、委員の皆様にお諮りいたします。各種調査の実施にあたっては、事務局から説明があった方針及び内容に、先ほど各委員からいただいた意見を反映させる形で進めていくこととしてよろしいでしょうか。

<「異議無し」の声>

[委員長]

ご異議も無いようなので、各種調査につきましては、先ほどいただいた意見を反映しながら、実施方針及び内容に基づき進めさせていただきます。

**(3) その他**

[委員長]

次の協議事項に移ります。協議事項(3)その他について、事務局から説明をお願いします。

= [事務局] =

【資料3「稲沢市観光基本計画策定委員会開催スケジュール（予定）」及び資料4「稲沢市観光基本計画アクションプラン検討会議実施概要」について説明】

[委員長]

事務局からの説明が終わりました。ご意見、ご質問等がある方はお願いします。

ここが肝になります。意欲のある方にやってもらわないと、実行性のあるものになりません。いかにやりたいという人を見つけてきて、やりたいことをやってもらうか。ここを組み立てていく作業が一番難しく、なおかつ一番大事な点です。委員の皆さんにお願いしたいことは、やってくれそうな人をぜひアクションプラン検討会議の中に巻き込んでいただきたいということです。愛知県で仕事をしていて個人的に感心することは、お金にもならないことを一生懸命する人がたくさんいるということです。愛知県は豊かなので、「お金にならなくてもやる」という人が多く、そんな人たちが「観光まちづくり」では肝になります。もちろん、「自分の商売のためにもっと違った展開で観光を使ってみたい」という方でもいいですし、そうした方々が非常に強い力を発揮してくださる場合も数多くあります。「観光を使って稲沢市をもっと魅力的にしていきたい」、「稲沢市を楽しいまちにしていきたい」という方々をこれから集めていきますので、ご協力いただきますようよろしくお願いします。

[委員]

7月5日はアクションプラン検討会議を午前中に開催し、策定委員会を午後開催するということですか。

[事務局]

午前中にアクションプラン検討会議を開催し、午後1時半から策定委員会を開催いたします。本日新たに加わった4名の委員については、午前と午後の両会議への出席をお願いいたします。それ以外の委員の皆様におかれては、午後からの策定委員会からご出席いただきますようお願いいたします。

[委員]

アクションプラン検討会議のメンバーについて、委員が人材を集めてくるという話、大変ご期待いただいているところだと思っておりますが、インセンティブは特に無いのですか。

[委員長]

インセンティブは人によって違うと思います。先ほども言ったとおり、「自分の商売のために行いたい」という方はもちろん大歓迎ですし、「楽しみのためにやりたい」又は「稲沢市にどんな人がいるのかを知りたい」という方もいらっしゃるでしょうし、「自分の子どもたちに自分のまちを誇りに思って欲しい」という方もいらっしゃると思います。こうした様々な方々に「協働の場」、「一緒に何かを行う場」を提供したいというのが、このアクションプラン検討会議の趣旨ですの

で、その意味で特定のインセンティブは付けないということです。

[委員]

特にターゲットとする年代層も設定せず、完全にフリーの状態ということですね。

[委員長]

何が出て来るか私も正直楽しみにしています。なるべく可能性を狭めずに、いろんな間口を広げてオープンに行っていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

[委員]

アクションプラン検討会議の第1回会議で委員長の基調講演をお聞きするのは、今回加わった4名の委員だけですか。

[事務局]

資料4の1ページにありますように、初回の時点で15～20名程度の方を集められればと思っています。これらの方々に委員長の基調講演を含めて会議にご出席いただく予定です。

[委員長]

ぜひいろんな方に参加していただきたいです。先ほど申し上げたとおり、今までの観光とはイメージが違うので、多様な市民の方々に参加していただき、観光を手段として様々なまちづくりを行っていただきたいと思いますので、思い当たる方がいれば、ぜひ連れて来ていただきたいと思います。

[委員]

私たちがご紹介してということですか。

[委員長]

もちろん事務局でもいろんな方々に声をかけますが、皆さんからも広げていただき、「これぞ」という方々をご紹介ください。

[事務局]

アクションプラン検討会議では、定員何名までという定めを特に設ける予定はありません。もちろん事務局でもご参加いただける方を探していきますが、皆様の知り合いで「観光まちづくり」に関心がある方をご紹介いただきたいと思います。なお、ご紹介いただく際にご利用いただく申込用紙も事務局で用意しておりますので、会議終了後にお配りいたします。

[委員長]

一般の会議よりかなりまどろっこしいことをするのが観光のやり方です。皆さんにはいろいろ

とお手間をかけますが、よろしく申し上げます。

その他に何かありますか。他にご意見もないようですので、以上で議事を終了いたします。多少時間をオーバーしましたが、本日は様々な意見をいただきました。皆さんで意見を共有して、イメージを固めてすり合わせていく上で非常に有意義な話し合いができたと思います。議事進行にご協力いただき、ありがとうございました。

それでは事務局から何かありましたら申し上げます。

[事務局]

ありがとうございました。本日皆さんからいただきました熱心なご意見、ご提言を踏まえまして、今後の事務を進めてまいりたいと思います。

それでは最後に事務局から2点事務連絡をいたします。始めに、次回第3回の会議は7月5日（水）午後1時30分から、会場はこの庁舎2階の政策審議室で開催しますので、よろしく申し上げます。2点目としまして、現在開催中の「いなざわ植木まつり」のチラシをお配りさせていただきましたので、ぜひご覧いただけるとありがたいです。

以上をもちまして、会議を閉会いたします。本日は長時間にわたり慎重審議いただき、誠にありがとうございました。

以上